
アリス
~東方少女催淫~
Adult only


こんな状態にされてから――
どのくらい経ったのかしら
何日――？何十日――？
それとも数時間しか経っていない――？
ジャララッ
無機質な器具の齎す押し寄せる快楽の波に
思考は千々に乱れて――
時間の感覚も失われていた


ん…
ローターの振動はイくにイけないくらい微弱なくせに
ヴヴヴヴヴヴヴ…ッ
それでも敏感な場所から的確に快楽を引き出す
それはまるで痒みのよう
手が届かないからこそ、その感覚は益々増してゆく
っ…!!
ヴヴヴ…ッ
ふー…
あんな人間の思い通りになりたくない
そう思っているのに——
そんな私の心にはもう耳をかさずに
私の体は——いっそイかせて欲しいと泣き喚いている
じわっ



本当に情けなくて恥ずかしくてどうしようもなくて
そんなどうしようもなさに私は、もう
ガチャッ
ギシッ
おまたせアリス調子はどうだい？
バタン
こんなふうにされていいわけがない。そう叫びたいのに——
そんなによだれをたらして
そこまで待ち遠しかったのかな？
口枷がなくても、それは無理だっただろう。
この人が来たという、それだけで——体は大喜びで、
ふぅ…
揶揄された通りに反応を返すのだから
カァァァ


苦しかったかい？
今、ギャグを外してあげるからね
カチャ
カチャ
そんな事されたら――
今、そんな事されたら――
ま、待って――
や、やめて――
すっ
ぷはっ
拘束されて、声を封じられて、だから押さえつけていられるのに――
今、それを解かれたら
もう、私の体は――
私――!!
はっ…
はやく…♡
ぼっ


アリス
~東方少女催淫~


全ての始まりは
あの月の大きな夜からだったと思う。
その夜の月はいつかの歪んだ月のように奇妙で
私も、そんな月に、どこか惑わされたのかもしれない。
いつもは通らない道を何故か選んでしまって—
その光景に、遭遇してしまった
だ…
だめだぜ…


こんな所で…もし…誰か…来たら…っ
何言ってるんだい
この辺りは何度も散歩に来たけど——
——？魔理沙と霖之助さん？
こんな時間にこんな所で…
一度もそんな事はなかったじゃないか。
すす…
何やってるのかしら？
——えっ!?



でっ でも―
それに 魔理沙もそういう のが――
誰か来るかも しれないっていうのが 好きなんだろう?
そ…、そんな事―


それじゃあ、僕はもう行くよ
ま、まってくれよっ
せめて、この目隠しくらい―
ほら、そんなに大きな声を出すと本当に誰か来てしまうかもしれないよ?
びくっ
ビクッ
心配しなくてもしばらくしたら迎えに来るよ
あ――


はー
はー
はーっ
魔理沙の息遣いは
はーっ
次第に荒く変化していった
興奮、してるんだ——
はっ
はっ
はっ
それは、股間に挿入された器具の所為なのか
ぶるぶるっ…
それとも、その痴態を、誰かに見られてしまうかもしれないという
その状態に——？


ガサッ
びくっ
だ、だれ…？
こーりん…？
あれ…？
私…
何…
やってるの…？
悪ふざけは
やめてくれよ…
ふら…


んっ…
私──
ぬるるるるる
んうっ!!
ビクッ
なんで…
こんな事…?
ぞくぞくぞくっ


あっ…?
すっ
ぞくぞくぞくっ
んあっ
ふに
ふに
ここまでして…
もし・魔理沙にバレたら…
ひゃうっ♡
ア…
ぶるっ
アリ…?
でも……っ!!
ドッ


駄目…
はっ
はっ
ぷはっ
な、何を——
はあっ
んぶっ!!
止まら…な…っ
くちゅっ


ちゅぱっ
こくん
どうし…
あ…？
ふらっ
ぐらぁ
あ…れ…？
ドサッ


あ…
その後…
目を覚ますと
ここは…？
そこは
地下室
だった
建材が剥き出しの
牢獄めいた
部屋の中に
一つだけ
周囲から
浮いたベッドが
っ!!
此処が何の為の
場所かを
物語っていた


ぎしっ
だめ、それ以上したらっ
目を覚ました時と同じ様に——
身動きが取れない様に拘束されて
ぎゅっ
そんな…っうそ…っ!!
ぱんっ
ぱんっ
私のはじめてこんな…っ!!
ぎしっ
ずぶぶぶっ
そのまま処女を散らされて
その後にも何度も、何度も——
うそ、うそうそっ!!
体内をかきまわされ
ドプッ
欲望を注ぎ込まれた
ゴポ…


それ以外の時間も
動きっ放しの器具を
付けたままにされて
こんな事くらいで…
ぎり…
大胆過ぎいなんだから…っ
敏感な場所を
刺激され続けた
体は昂った
ままで—
けれど
憎らしい事に
それは
どーしてっ
私の体おかしく
こんなに感じて…
ウ～～～ッ
こんな中途半端じゃ
イけないっ
なんでこんな事思ってーっ
イく事は
出来ない程度の
強さに調節
されていて、
どんなに
思い通りに
なるものかと
抵抗してみても
ふる
ふる…
…っ
ぜったいに…
思い通りに
なんか…


放置される間の
無限にも感じる
時間は
びくっ
ぎり…っ
簡単に
そんな心を
打ち砕いて――
ぶるっ
あちらの
思い通りに、
言われる儘に、
ぞく…♡
がくがくがくっ
如何に自分の
体躯が厭らしい
状態なのかを
説明し、
如何にその
疼きを満たして
欲しいかを
告白し
その通りに
何度も、
何度でも――
びくんっ♡
びくっ♡
イかされた


魔理沙の体液は
媚薬の様なものに
なっているらしい
ちゅぱっ
いきなり
大量に摂取し
過ぎたせいで
気絶して
しまったらしい
のだけれど
こくん
それは
ともかく
それは—
言いつけを
こなすと、
満たされる
あ、
というような
状態にする
効果が
あったらしい
はー
だめ…
それが
『おあずけ』後の
『ごほうび』を
『おあずけ』
されている
時間すら——
くにっ♡
ぴくぴくっ
欲しい…
なんて…
思っちゃだめ…
にぎっ♡
より甘美な
ものにしていて


やぁ…ッッ
乳首弄られてるだけなのに…
繰り返される調教に私は
あ…ひぁっ!!
なんでこんなに…
少しづつ
少しづつ——
そんな…私…犬気でされてる!?
おほぉおおぉっ!!
や…
逆らえないようになっていった


例え
はじめの内は
正気を保って
ど、どうして私がこんな事しなくちゃいけないのよ…っ!!
こん
な…っ
我慢して、
抗えていても
でも…これ
ちゃんと
できれば
最後には
抵抗出来なく
なり、
また…アレ
出してもらえ…
ち、違うっ、早く終わらせる為に…っ
んッ
んぅっ
あれ…っ
なんで私
こんな事して
るの…っ
言いなりに
なった挙句
ちゅぷ
ちゅ…
思い通りに
されてしまう
ビュッ
ビュッ
だめぇ…っ
出されたら…っ
コレ出されたら…
んんんっ!!


ん～っ
ぞくぞくぞくっ
こくん
くちゅ
本当に駄目にっ
だめになっちゃうよぉっ
逆らえない——だけじゃない
んくっ…んんっ…っ
私の体は、もう私のものではないみたいに、
私の思い通りには操れない
もう・私の体は——
もう…っ入れてよぉ…っ
ぶるぶるっ
それっ ここにほしいのっ
ほしいの止まらないのぉ…っ
きたっ♡ きた きたきたぁ♡
その快楽を覚え、それを望んでしまっている
おまんこにっ おちんちんほしいのぉっ!!
くぱぁ…♡
そして——



そんな体に――
心も――
ぽっ
はっ…
はやく…っ♡
いつもみたいにシたらいいじゃない…っ♡
いや、今日はちょっと違う事をしようと思ってね
これを持って来たんだけどー
な…何あれ・・すごい…っ
ドキドキ♡
あんなの・あんなの入れられたら…っ
――え？


ど……っ
どうして…？
なんで…っ なんでいつもみたいにしないの!?
してっ してよぉ! いつもみたいにめちゃくちゃにっ
いくらでもイかせてよぉ!
はやく! それはやくっ
入れてよ それっ!!
バイブっ バイブ入れてぇ!!
カチャ
カチャ カチャ
ああ、だから―
カチン!!


ほら、好きにするといいよ
そ…そんな…
ギュウッ
ぱくぱく
あ……
あ…あ……
がくっ
がくがくっ
あああああ…
ドッ
あぁッ!!♡


やっと…やっと入れられるよぉっ
こんな…弱いのじゃ…ローターじゃなくて…
ずっとイけないままだったけど…
こんな太いので…思いきりかきまわして…
ちゃんとイけるよぉっ！
ん…っ



や…やっと…
ぶる…っ♡
は、
ぴくん、
はっ♡
は、
はぁっ
やっと
イけたよぉ…っ
ぶる、
ぶるぶる…♡
はっ♡
はっ
よかったね、
ほら――
ま、
まって…
それだめ…っ
だ…
もっと好きなだけ
イくといいよ


それ言っちゃだめぇ!!
イけ
せめて…膣内から…コレ…
ぬけば…楽になれ
イけ
そんなっ
スイッチ…入れ…ちゃ…っ
イけ


だめ…っ
だめなの…っ
がくっ
もう…
体…
言われた
通りになる
ように…
なってる…っ
がくがく…っ
今まで
ずっと
言うこときくと
気持ちよかった
から…
イけって
言われたら、
その通りに
イっちゃう…っ
どんなに
焦らされた
あとでも…
言葉だけだと…
苦しいの…
気持ち
いいのが、
それだけで…
強すぎるの…
苦しいの…
それに…
いつも最後は…
玩具じゃなくて
…だったから、
ふる…っ
それでないと…
ちゃんと
おわれなく
なってるのぉ…
ふる
ふるっ



ずっと…
続けてる
感じなの…っ
ぶるぶる…
一番奥にある
乾いた感じが
な～なって
くれないの…
中に…アレ…
もらえないと…
コレ…
おさまら
ないの…
ぬるんっ
ボトッ
だからっ
してよぉっ
いつも
みたいに…
それ入れて…っ
ふるる…
おち[redacted]ん…
お[redacted]こに
入れてよぉっ!!


びくびくっ
にゅぷっ
びくーっ
びくびくっ
イっちゃうっ♡
奥…っ
一番奥に
コツンって…っ
きてっ♡
きてっ
きてっ♡
きてぇっ♡
奥まで
来てぇっ♡


やっぱりすごい……っ
これすごいよぉっ
びく
びくびくっ
あったかくて……
脈打ってて…
私に合わせてくれて……
じゅぷっ♡
私にずらしてくれて…っ
それに――
とくん
これっ♡!!


来たっ
出てるの きたぁっ♡
これぇっ♡
これが 足りなかった のぉっ♡
ぶりゅっ
これ、いいのぉっ
うれしいのぉっ♡
ぶぴっ
私の中で… 気持ち良く なってもらえ たって…
すごく しあわせに なれるのぉっ
びくんっ
うれしっ
うれしいっ♡
うれしいよぉっ♡


うれしくてっ
すごいっっ
ビクッ♡
ビクッ
ビクッ♡
すごいぃっ♡
すごい
ぐぐくぐくっ♡
イっちゃうぅ～っ♡


はっ
はっ
んっ
私また…
コポ
コポ
こんな…ホースで…
おしりからぬるま湯入れられてる…っ
へんっ
コポ
ぶる…
コポ
へん…へん…っ
コポ
こんなの…変だよぉ…っ
これ…体温と同じ温度なせいで…
違和感がなくて…でもそれがよけい変で…
おなかだけかってにふくらんでるみたいで…
コポ
コポ
ぶる…
でも…がまんし難くて…



でも…
がまんしないと…
私でないと
っ…
べ…
私…っ!!
ビクッ
んんっ!!!
ぬぬ
だめぇっ!!
ぽん
だ…
だめ…っ
こんな…
こんなの…
見ないでよぉ…っ
そんなのできもちよくなっちゃ…
だめなのに…っ
ぶるっ
ぶるっ
ぶびっ
こんな…
おしりからおゆだして…


チリン
チリン
チリン
こんな時間に…
こんな場所に…
私…何されちゃうのかしら…？
ふる…っ♡
はっ
あ…れ…？
チリン
ふるふる
はっはっ
ここ…見覚えがある…
もしかしてここって…


やや やだ…っ
こんな所なのに…っ 止められないよぉ…っ
—?
アリス? どうしたの?
べ…っ べつにっ!?
臭いは… ちゃんと消せてるみたいだけど…
それより… 私… もしかして…
今ので… 気持ちよくなって…?



やぁ…
見ちゃ…
見ちゃだめぇっ
もじもじ
だめ…
アレ…
されたら…っ
こん…な…
おしっこ…
出すだけで…
気持ちよく
なっちゃうのに…っ
くぅ…
直接…
されたら…っ
そんな
ので…
直接
おしっこの穴
ほじられ
たら…っ
ら…
らめら
よぉ…
ジョッ
ショロロッ
ほじっひゃ
らめぇえぇ♡
そこ…
おしっこの
穴で…
イッちゃう
よぉおっ
ぱ あ…


やっと…来てくれたっ
早くそれ…入れてよぉ…っ
こうされただけでイけるのに…
イっちゃだめって言われてたから…
その通りにイけなくなってるのぉ…
早く…してよぉっ
あ…っ❤
みちっ
ずぶぶぶっ
入って…きたぁっ
バイブが…っ
私のおまん●に…っ
びくんっ
入って来たよぉ~
びくっ
びくっ


放置されるのもいいけど…っ
やっぱり直接してもらえるのがいちばんいいよぉ…っ
もう…
いつでもイけるくらいきもちいいから…っ
そんなことされたら…
…って
え?
そっちも入れちゃうの…?




はぐっ
おあ…
は…
みちっ
う…うひょ…
わらひ…ほんなにねひほまれへ…
はっ
くるひっへ…はんひほの…
ぬぽっ
ぬぷっぬぽっ
ぐぽっ
めちっ
ほれも れんぶ…
ひもひ…いいっへ…♡


びゅるっ
出てっ!?
るるるるる〜
出てりゅ〜!
おしりのなかに出てるぅ〜
イっひゃらめっへ言われへ…
イへかなっなっへるのに…!!



■発行■ 2007年5月28日
■印刷 ねこのしっぽ




Adult only